

『平成25年度豊かな体験活動推進事業』活動報告書

【豊かな体験活動推進事業 推進校】

子ども農山漁村交流プロジェクト

山口県山陽小野田市立出合^{であい}小学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：6学級
- 児童数：145人
- 教職員：16人
- 活動の対象学年：5年生 19人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 地域との結びつきが強く、見守り隊や学習サポーターなど地域の方とのふれあいの場も多い。地域の方に、参観日や運動会の行事に来ていただくだけではなく、ふれあいクラブ活動など、講師としてお招きして交流を図っている。
- 本校児童は、保育園からほぼ同じメンバーで構成されているため、人間関係が固定化している。また、豊かな自然に恵まれてはいるが、下校後は習いごとやスポーツクラブなどがあるため、友達と自然の中で遊ぶことはほとんどない。

③ 連絡先

- 〒757-0003
山口県山陽小野田市大字山野井 2816
- 電話：0836-72-0169
- FAX：0836-72-0338
- ホームページ
<http://www.edu.cty-so.jp/deai-es/>
- 電子メール
deai-sho@city.sanyo-onoda.lg.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 初めて出会う人々とのふれあいを通して、人と人とのつながりの温もりを感じ、望ましい人間関係を築くコミュニケーションの力を身につける。
- 自然とふれ合う活動を通して、自然に親しみ、大切にすることを育てる。
- 民家への宿泊では、基本的なマナーを身につけ、自分にできる役割を積極的に果たし、自分の日常生活を見つめ直し改善する。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 入村式（俵山）
- 山登り体験【体験プログラム①】
- 農業体験【体験プログラム②】
- そば打ち体験【体験プログラム③】
- 竹細工体験【体験プログラム④】
- 退村式（俵山）
- 入村式（通）
- 波止場釣り体験【体験プログラム⑤】
- 魚のさばき方体験【体験プログラム⑥】
- 海岸清掃体験・通地区歴史探訪【体験プログラム⑦】
- 漁船航行体験【体験プログラム⑧】
- 退村式（通）
- 宿泊先
山口県長門市俵山地区の旅館 1泊
山口県長門市通地区の民家（5家庭）2泊
- 受入地域協議会
俵山グリーンツーリズム推進協議会
通鯨・ツーリズム推進協議会

1 活動に関する学校の全体計画

① 活動のねらい

- 初めて出会う人々とのふれあいを通して、人と人とのつながりの温もりを感じ、望ましい人間関係を築くコミュニケーションの力を身につける。
- 自然とふれ合う活動を通して、自然に親しみ、大切にすることを育てる。
- 民家への宿泊では、基本的なマナーを身につけ、自分にできる役割を積極的に果たし、自分の日常生活を見つめ直し改善する。

② 全体の指導計画

活動時期・期間	実施する体験活動の概要	教科・領域	単位時間
6月下旬 ～7月中旬	【事前学習】 ・体験活動の概要、ねらいの説明 ・グループ編成、グループの約束づくり ・活動のめあての設定（グループ、個人） ・俵山、通についての調べ学習 ・民泊、共同生活のマナー学習 （ソーシャルスキル学習）	総合的な学習の時間	6 単位時間
7月21日 ～7月24日	【集団宿泊体験活動・民泊体験活動】 入村式（俵山） ①山登り体験 ②農業体験 ③そば打ち体験 ④竹細工体験 退村式（俵山） 入村式（通） ⑤波止場釣り体験 ⑥魚のさばき方体験 ⑦海岸清掃体験・通地区歴史探訪 ⑧漁船航行体験 退村式（通）		
9月上旬	【事後学習】 ・お礼の手紙を書こう ・体験学習で学んだことを伝えよう（全校発表） ・体験したことを作文に書こう ・友達の良さを振り返ろう	総合的な学習の時間	6 単位時間

2 活動の実際

(1) 事前指導

① 班編成について

長門市の俵山と通の2ヶ所で学習を行うため、学校生活の中だけでは見えない友達のよさに気づくことができるよう、日頃から仲のよい友達だけではなく、話してみたいと思っている友達と班を作るように声かけをした。

② めあての設定について

次のような目標が達成できるようにするために、生活の心得として9つのめあてを設定した。

目標

- ◎ 感謝の気持ちを言葉や行動で表そう。
- ◎ 友達や地域の人とのふれあいの中で、自分から進んで関わろう。
- ◎ 自然に親しみ、大切にしよう。

生活の心得

- あいさつや返事をはっきりと気持ちよくする。
- 「ありがとうございます。」と感謝の気持ちを伝えよう。
- 自分から進んで行動しよう。
- 自分にできることに、積極的に取り組もう。
- わからないことは進んで尋ねよう。
- 自分の思いを素直に伝えよう。
- 言葉は最後まではっきりと話そう。
- 5分前行動を心がけよう。
- 優先順位を考えて行動しよう。

③ 不安の解消について

保護者に対して、事前説明会を前年度の参観日に行った。大まかな体験活動例やめあてを伝え、事前に家庭で身につけてほしいことの協力をお願いした。今年度に入っても参観日で説明会を行い、活動の詳細や準備物などについて再度知らせた。不安に感じたことや受けた質問については、長門市コンベンション協会のスタッフの方などに問い合わせ、学級通信などですぐに保護者に伝えた。児童に対しては、パンフレットを見せ、活動の内容のシミュレーションを行った。また、自己紹介の仕方や公共の場でのマナー、民泊先での夜の過ごし方など、班で計画を立てたり、ソーシャルスキル学習を行ったりして、自分の行動を振り返り改善する学習に取り組んだ。



(2) 活動の展開 (プログラム)

7月21日 (日)		7月22日 (月)		7月23日 (火)		7月24日 (水)	
10:00	里山ステーション俵山集合	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
	入村式	7:00	朝食 (旅館)	7:00	朝食 (民家)	7:00	朝食 (民家)
	【体験プログラム①】	8:20	里山ステーション到着	9:00	通漁協前に集合	9:00	通漁協前に集合
10:30	山登り体験 (徒歩)		【体験プログラム③】		【体験プログラム⑤】		【体験プログラム⑧】
	昼食 (おにぎり弁当)	8:30	そば打ち体験	9:15	波止場釣り体験	9:15	漁船航行体験
	【体験プログラム②】	11:30	昼食 (そば)		【体験プログラム⑥】	11:30	昼食 (通公民館)
13:30	農業体験 (野菜の植え付け)		【体験プログラム④】	11:00	魚のさばき方体験	13:00	退村式
16:20	泉屋 (俵山温泉) に到着	12:30	竹細工体験	12:30	昼食 (魚料理)	15:30	出合小学校到着
17:00	入浴 (白猿の湯)	15:00	退村式		【体験プログラム⑦】	15:40	解散式
18:15	夕食 (旅館)	16:11	長門湯本駅出発 (電車)	13:30	海岸清掃体験		
19:30	1日の振り返り	16:25	仙崎駅到着	14:30	通地区歴史探訪		
20:30	就寝準備	17:00	民泊先と対面式 (通)	16:00	民泊先に移動		
21:00	就寝・消灯	17:30	民泊先に移動	18:00	夕食 (民家)		
		18:00	夕食 (民家)	19:00	入浴 (民家)		
		19:00	入浴 (民家)	20:00	1日の振り返り		
		20:00	1日の振り返り	20:30	就寝準備		
		20:30	就寝準備	21:00	就寝・消灯		
		21:00	就寝・消灯				

(3) 事後指導

① お礼の手紙を書く

通の民泊先の家庭やゆうゆうグリーン俵山のスタッフの方へのお礼の手紙を書くことによって、宿泊学習でお世話になった方々へ感謝の気持ちや自分が学習を通して成長したことを伝えた。

② 全校への発表

学習発表会で全校児童や保護者、地域の方々に、自分たちが体験した活動や学んだことを劇や作文などで発表した。

③ 体験したことを作文に書く

宿泊学習で体験したことや心に残ったこと、学んだこと、成長した自分などをテーマに作文を書いて掲示した。この活動によって友達の良さを改めて知り、今まであまり関わらなかった友達とも積極的に関わろうとする姿が見られるようになってきた。

④ 友達の良さを見つける

体験活動中に見つけた友達の良さを互いに発表することによって、自己肯定感が高まった。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校や受入地域の支援体制

- ① 学校の体制・・・校長、教頭、教諭2名（5年担任、ふたば担任）計4名
- ② 指導者・・・・・・ゆうゆうグリーン俵山（俵山グリーンツーリズム推進協議会）スタッフ
通鯨・ツーリズム推進協議会
くじら資料館館長

(2) 配慮事項

- ① 事前の健康調査をもとに、児童一人ひとりの健康状況を受入地域担当者及び民泊先に伝えた。
- ② 現地の下見や受入地域担当者との事前協議により、受入体制やプログラム、安全面の確認を詳細に行った。特に熱中症対策については細心の注意を払った。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

- ① 活動ごとにめあてをもち、行動するよう指導した。
- ② 民泊先や体験活動などを指導して下さった方、食事を作って下さった方など、多くの方へお礼の手紙を書くことによって、自分の活動を振り返ることができるようにした。
- ③ 事前と事後の児童の意識調査を実施し、その分析結果を事後の活動に生かすようにした。

5 活動の成果と課題

(1) 成果

- ① 受入地域のスタッフ、民泊先の家族など、多くの方との交流をもち、明るくあいさつ、はきはきした返事など、コミュニケーションの力を身につけようとする姿が見られた。また、宿泊学習中に家族に対して手紙を書き、自分の成長を伝えることによって、家族の大切さに気づくことができた。
- ② スタッフの方や受入地域の方と共に活動することを通して、固定した人間関係の中で育ってきた子どもたちが自ら新しい関わりを持つようとする意欲が育ち、相手とよい関係を築くというコミュニケーションの力を学ぼうとする気持ちが伝わってきた。わからないことは進んで尋ねる姿も多く見られた。
- ③ どの活動にも意欲的に取り組む子どもたちに、スタッフの方や受入地域の方が褒めたり励ましたりして下さったお陰で最後まであきらめない気持ち、やり遂げたという達成感が自信となって、1日1日成長していく姿が伺えた。
- ④ 一つ一つの体験に驚き、感動をもって取り組むことができた。感謝の思いをどのように伝えたらよいのかを考え、実行する姿を賞賛した。
- ⑤ 学習後すぐに夏休みに入ったが、学んだことを生かして夏休みを過ごした子が多く、2学期になってすぐに始めた運動会の練習（全校ダンスなど）でも、6年生と共に学校の中心となって活動することができた。今まで消極的な児童が多い学年であったが、自分から係を引き受けたり、

